

自社開発原料を学会発表「カキドオシ抽出物」

「コスモビューティー」OEM提案直結目指す

化粧品OEM・ODMの
コスモビューティー（大阪
市、山添隆社長）は、同社
が新開発した化粧品原料
「カキドオシ抽出物」につ
いて、グルタチオン合成促
進や過酸化脂質による細胞
損傷の緩和効果などの機能
性を確認し、今年3月に開
催された日本薬学会第145年
会で成果を発表した。

同社は国産カキドオシを原
料とし、50％エタノールで
抽出。抽出物に高純度の抗
酸化成分・ロスマリン酸が
約250ppm含まれることを
見出し、これが皮膚細胞内
のグルタチオン合成を促進
することを確認した。

「細胞試験では、ヒト表
皮ケラチノサイトにおいて
グルタチオン量の有意な増
加が認められたほか、皮脂
酸化のモデル化合物である
tert-ブチルヒドロキ
シペルオキシド（TBHP）
暴露下で酸化ストレスを与
えても、過酸化脂質やカル
ボニル化タンパク質の生成
を抑制する効果がみられ
た。これにより、カキドオ
シ抽出物には内因性の抗酸
化力を高め、肌のバリア機
能を守る「守りのスキンケア
素材」としての有用性が
期待できる」（研究部・森
口主任）。

さらに、カキドオシのに
おい抑制効果に関する特許
も出願中で、今後はスキン
ケアだけでなくデオドラ
ン用途など幅広い応用展開
も目指す。エビデンスに基
づいた「和ハーブの力」を
前面に押し出した素材提案
を強化することで、OEM
クライアント企業に対する
付加価値提供を一層進め
る。同社ではこれまで、大
学等との共同研究を通じた
原料開発が主だったが、社
内に評価チームを立ち上げ
3年、今回初めて自社主導
の研究で学会発表を実現。
他社からの引き合いも増え
ていることから、研究開発
力の面で一層の信頼を得る
契機とするとしている。